

クローズアップ!

知っておきたいビジネスキーワード

経営に役立つキーワードを解説(8)

監修:大阪経済大学中小企業・経営研究所

解説:中村 健二 (大阪経済大学 情報社会学部教授)

今月のキーワード

## Society ソサエティ 5.0 : そこまで来ている未来!

Society5.0 とは

Society5.0は「日本がめざすべき未来社会」として提唱された社会構想(2016年に閣議決定)です。複数のコンピュータがインターネットを介して繋がり構成される「サイバー空間」と「フィジカル空間(現実空間)」を高度に融合させることで、人々の生活をより豊かで持続可能なものにすることが目標です。実現すれば、人が情報を入手・分析しなくても、AIや機械が自ら情報を収集し、蓄積されたデータを解析し、適切な情報を必要なタイミングで人や機械に提示してくれます。いままでのように、人が機械やロボットを意識して操作しなければならない世界が大きく変化します。

Society5.0の仕組みと今後

Society5.0を実現するための重要な基盤技術のひとつが「デジタルツイン」で、私たちが生活する現実空間の情報を、そのままコンピュータ上のサイバー空間に再現します。それにより、現実空間で「ヒトがいつ、どこで、何を、何のためにしているのか」や、「どこに建物や道路、河川や鉄道などの社会インフラがあるのか」などの情報が、サイバー空間に蓄積・共有されます。

例えば作業員が、位置情報と姿勢などを計測できるウェアラブルセンサーを装着して業務を実施した場合、すべての作業員が、いつ、どこで、何を、何のためにしているかがサイバー空間で共有され、瞬時にAIが最適な作業を判定し、現実空間の作業員に対して、次はどのようなことをすればよいかといった作業指示を自動的に行うことなどが、将来的に実現されます。

土木建設・建築業界における期待

Society5.0は、土木建設・建築業などの中小企業にも、多くのよい影響をもたら

らします。労働力の効率化と自動化の観点では、「ドローンによる広範囲の監視や高解像度の空中写真による高精度な写真測量」や、「建設ロボットの導入による効率化」が、その代表例です。

前者により、施工対象の設計図面である 3 次元 CAD データと現状の施工状況のデータがサイバー空間に共有され、日々の出来高(工事進捗状況)をリアルタイムに把握できます。また、後者により、危険をともなう作業や単調な作業をロボットに任せることで、作業員の負担を軽減し、安全性を高めることができ、さらに人手不足への対応なども期待できます。

---

**Society5.0 は、土木建設・建築業界にとって、業務の効率化や安全性の向上を促進し競争力を高める大きなチャンスとなり、ビジネス展開における重要な鍵になると思われます。**